

なかとんべつ 町議会だより

Volume

185

平成26年7月25日発行



酪農地帯の初夏の風物詩：牧草の収穫（敏音知地区）

第2回定例会議決結果の一覧	3
私たちの一般質問	4
報告事項、第3回・第4回臨時会結果	8
議決された予算等、いきいきふるさと常任委員会、 議員だより	9
管内議員研修会報告・議会の動き・あとがき	10



第2回 定例会

平成26年第2回定例会が、6月18日から2日間の会期で開催されました。
野邑町長は、冒頭の行政報告で下記の通り報告しました。

1. 監査委員の辞職について

本町代表監査委員の三浦義一氏から6月14日付けで、一身上の都合により6月30日をもって監査委員の職を辞したいとの辞職願の提出がありました。

ご本人は、体調不良から札幌の病院に入院し、療養を続けられておりますことからやむを得ないと判断し、辞職を承認することといたしました。

一般質問では、通告順に6議員が質問を行いました。

報告では、平成25年度予算を平成26年度に繰り越して使う「繰越明許費繰越計算書」のほか、町が資本金を出資している「中頓別観光開発株式会社」、「有限会社中頓別振興公社」の平成25年度経営状況、法律により議会への報告と公表が義務付けられている「新型インフルエンザ等対策行動計画」が報告されました。

町長から提案された補正予算を含む議案4件、任期満了を迎える選挙管理委員・補充員、議会推薦の農業委員を決定するとともに、議員により発議された「特定秘密の保護に関する法律の廃止を求める意見書」、「規制改革会議意見書の取扱いに関する意見書」をいずれも原案どおり可決して19日に閉会しました。

山本得恵、柳澤雅宏、星川三喜男 3議員に 北海道町村議会議長会表彰

山本得恵議員、柳澤雅宏議員、星川三喜男議員が、議員在職15年以上にわたり地方自治の振興発展に寄与した功績を称えられ、6月5日、札幌市で開催された第65回北海道町村議会議長会定期総会において表彰されました。

第2回定例会の開会前に村山議長から表彰状が伝達されました。



第2回定例会で 決まりました



議決結果の一覧

- 議案第39号 過疎地域自立促進市町村計画の変更
 - 議案第40号 一般会計補正予算
 - 議案第41号 国民健康保険事業特別会計補正予算
 - 議案第42号 国民健康保険病院事業会計補正予算
 - 発議第3号 特定秘密の保護に関する法律の廃止を求める意見書
 - 発議第4号 規制改革会議意見書の取扱いに関する意見書
 - 請願第2号 規制改革会議意見書の取扱いに関する請願
- ※ ○は原案可決・採択

- 報告第1号 平成25年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告
- 報告第2号 中頓別観光開発株式会社の経営状況報告
- 報告第3号 有限会社中頓別振興公社の経営状況報告
- 報告第4号 新型インフルエンザ等対策行動計画の報告

選挙第1号 選挙管理委員の選挙

任期満了に伴う選挙管理委員4名の選挙の結果、次の4氏が当選されました。

佐藤 美昭さん(再)
藤田 朋美さん(再)
周防 雅行さん(再)
丸山 博光さん(新)
(任期4年 平成26年6月29日)
平成30年6月28日

選挙第2号 選挙管理委員補充員の選挙

任期満了に伴う選挙管理委員と同数(4名)の補充員選挙の結果、次の4氏が当選されました。

補充員は、委員に欠員が生じたときに、選挙管理委員長が補欠するもので、順位が上位の者から補欠されます。

順位 1 鳥田 博さん(新)
2 平 中 静 江さん(再)
3 相馬 祥子さん(再)
4 ボーセン 仁美さん(再)
(任期4年 平成26年6月29日)
平成30年6月28日

農業委員の推薦

任期満了に伴う議会推薦の農業委員1名を全会一致で推薦しました。

藤田 健一さん(再)
(任期3年 平成26年7月20日)
平成29年7月19日
委員の役割は、農業委員会法により、自作農の創設及び維持、農地等の利用関係の調整その他農地に関する事務などです。

議会を傍聴しましょう

議会は、町民の暮らしに直結する税や福祉などの身近な問題を議論する大切な場です。議会では、議会だよりで情報の提供に努めていますが、町政の動きを定例会や各種委員会を実際に傍聴し、自らの目と耳で知ることが大切です。

次の定例会は、9月に招集されます。日程は、議会だより臨時号などでお知らせします。

ホームページで議事録などを公開しています

町のホームページ (<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp>) で議会だより、定例会の議事録などを公開しています。町ホームページから(議会)へ進みご覧ください。

議会日程や傍聴の手続き、請願・陳情などのお問合せは、Tel6-2244 (議会事務局) へ。

ここが聞きたい、知りたい

私たちの一般質問

細谷久雄 議員



質問
●地域防災と災害に強いまちづくりについて

災害が発生した場合、すべてに行政が対応することは困難であり、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自主防災組織の活動が重要である。

昨年度の防災訓練を終えての反省点・課題は。また、本年度の防災訓練の計画を伺う。

答 弁 ○和田総務課長

昨年度の防災訓練は、あかね自治会、第1自治会の一部を対象に、34名の住民と町職員・関係者が加わって98名で実施された。

訓練終了後のアンケートでは、街頭放送や広報車の音声がよく聞こえないとの声が多く、情報伝達に課題を残した。

今年度は、10月2日に洪水避難対象地域を第2自治会まで拡大して実施する予定である。

また、より多くの町民に防災に関心

本多夕紀江 議員



質問
●理学療法士の指導で、地元でリハビリを

けがや病気が原因で身体が不自由になり、リハビリを必要としている方は、施設入所、在宅を問わず多いのではないか。

① 町として理学療法士を雇用できないか。理学療法士がいてこそ、保健センターのリハビリ用の器械器具も活用できるのではないか。

② 理学療法士の雇用が難しいのであれば、要介護や寝たきりの原因となるロコモティブシンドロームの予防と啓発に力を入れるべきではないか。

答 弁 ○小林保健福祉課長

① 健康増進事業・介護予防事業として、月1回、理学療法士・作業療法士の派遣を受けて町民への個別指導を行っている。常勤の理学療法士の配置は、ニーズや施設整備など総合的に検討しないと判断できないので検討課題とし、当面は現状のまま

を持つていただくため、稚内・旭川開発建設部の協力を得て、両開建が保有する排水ポンプ車、衛星通信車などの災害対策用機械の参加・見学会を予定しているほか、リエゾンと呼ばれる現地情報連絡員の派遣など、大規模災害時の国の支援が想定できる訓練になる。

質問

●町長として4期16年の総括は

「北緯45度癒しの里 ロマン息づく大自然の町・中頓別」のキャッチフレーズを掲げた野邑町政も4期16年の最終年度を迎え、残すところ10ヶ月となった。4期16年の総括をお聞かせ願いたい。また、残り10ヶ月で達成すべき町政の課題を伺う。特に有害鳥獣処理施設建設工事及び購入備品等について伺う。

答 弁 ○野邑町長

私は、平成11年4月に町民のみならずのご支援とご協力をいただき、無競争で町政を担当させていただき、本年度で4期16年の最終年度を迎えた。

この間、町民に約束してきた施策等については、自分なりに判断すると概ね達成できたものと考えており、残された期間は、本年度の町政執行方針の重点的施策の実現に努力してまいりたい。

また、有害鳥獣処理施設の管理運営については、当面は町直営で行う考えであり、備品購入等についても、今後、狩猟者と十分に協議をしながら進めてまいりたい。

したい。

リハビリ用の器械器具は、保健センター開設時のものがほとんどで、当時は数名が活用していたが、ニーズがなくなつて利用されなくなった。多様な仕組みの中で費用対効果のある選択肢を検討してきている。

② ロコモティブシンドロームについては認知度も含め、メタボリックシンドロームや認知症と合わせて、寝たきりにならないように健康増進計画の中で検討する。

質 問

●町民に親しまれるピンネシリ温泉に

① 温泉の位置付け、集客の方法、新役員体制で新たにできることは？

経費の削減だけでなく、町民が利用したいと思えるような工夫をすべきではないか。

② 食事について、指導・助言だけではなく、メニューや味の検討、試食まですべきではないか。

③ 敏音知岳、道の駅、コテージ、キャンプ場、そうや自然学校などの施設・資源と温泉を連携させて運営する考えはないか。

答 弁 ○遠藤まちづくり推進課長

① 温泉は、町民の健康増進・保養施設、都市住民との交流の場として観光振興を図る上で重要であるとともに、就労の場の確保、食材や燃料の購入など地域経済においても重要な

施設であり、温泉の機能をセールスポイントに今年から取締役全員で営業活動を行う。

② 食事は課題であり、役員会を温泉に集まって食事をしながら行い、改善に向けての議論をしていく。

答 弁 ○野邑町長

③ 敏音知地域を総合的にまとめて観光協会が運営できないか、庁内で検討してきている。一体となった管理運営ができるよう模索している。

宮崎 泰宗 議員



質 問

●教育委員会の職場環境について

前教育長が任期を2年半あまり残して突然辞職し、長期休養に入ったベテラン職員もいると聞く。大人のいじめや職場内でのパワハラが社会問題となっているが、本町教育委員会事務局内でそのような心配はないか伺う。

教育長が辞職するような重大事にも

かわらず、なぜ教育委員会事務局内の職員体制は見直されなかったのか。大人の職場環境だけでなく、学校生活の中で悩みを抱えている子供はいないか。

答 弁 ○野邑町長

前教育長が辞職に至った理由の一つに、希望していた職員体制が見直されなかったことが考えられるが、職場内でのいじめ等の報告は受けていない。

職員体制の見直しは、2年前にほとんどの課長職を異動させたので、それ以降の管理職人事は考えていないと前教育長に伝えていた。それ以上のことは教育行政のトップである教育長の裁量によって解決されるべきと考える。

答 弁 ○柴田教育長

職員の長期休養について、期間は3ヶ月となっているので、それまでに職場復帰できるよう対応していく。

本町教育機関でもいじめ防止の計画を策定し、毎月1回アンケート結果を報告しているが、報告は受けていない。過去からの未解決な事例や解決済みの事例があっても、いじめに発展しないよう対応し、見守っていく。

質 問

●総合計画の見直しを

2010年からの30年間で、中頓別町では74.2%の人口減少率になるとの予測が5月8日に報じられた。

第7期総合計画は重点事業、最重点

事業でさえも形が見えない。まちづくりの核となる事業が進まない限り、日本創世会議が予測するところの人口減少を前提に総合計画の内容を見直すべきではないか。

人口問題を考える上で欠かせない若者との意見交換が行われ、ある程度のニーズが把握されたと思うが、今後の対応を伺う。

答 弁 ○野邑町長

日本創世会議が発表した今回の予測からすると、第7期総合計画で定めた10年後の人口目標は大変きびしい数字となるが、これは最大の減少率であり、今後の取り組みによっては抑制できるものと考ええる。

総合計画の見直しについては、部分的にこれまで6回の変更を行ってきた。全体の見直しについては、前期5年間で時代の変化に合わせた施策を随時追加し、その経過と結果から判断していただきたい。

答 弁 ○遠藤まちづくり推進課長

内閣府が行った意識調査では、婚姻に対する興味を示した未婚青年は僅か20%ほどであり、本町でも少子化に対する特効薬的な解決策は見いだせていないが、自治体の存続に関わる問題であり、正式に後継者・担い手対策の懇談会を設置するなど、若者の意識に働きかける取り組みを進めていく。

柳澤雅宏 議員



質問
●ピンネシリ温泉の運営について

中頓別観光開発株式会社の代表取締役が町長から別の株主に交代したが、出資株の半分を占める町として、今後、ピンネシリ温泉の運営にどのような関わっていくのか。また、このことは2期連続赤字の経営責任の転嫁ではないかと思うかがか。さらに、現在の指定管理者がふさわしいか見直すべきと思うかがか。

答 弁 ○野邑町長

ピンネシリ温泉の運営に関しては、今後は町から出している取締役を通じてピンネシリ温泉の目的でもある町民の健康増進・保養施設、町外の人たちの宿泊施設として、健全な運営が図られるよう全面的な支援をする。

代表取締役の退任に関しては、以前から私が代表取締役を引き受けても日常的に会社に向き経営の中身を確認

することができない状況であり、数年前より退任したいとの意向を取締役会で申し上げており、決して経営責任を新たな代表取締役に転嫁するとの考えではない。

現在の指定管理者との契約は平成27年度までであり、見直すべきかどうかは、次期指定管理者の決定に当たり検討すべきものとする。また、現段階で会社運営の赤字を理由に契約を解除することはできないと考える。

質問
●副町長の配置について

平成19年から7年間、副町長が配置されていないが、町長が公務出張等で不在の場合、町を代表する者がいないことは問題があると思う。あらためて副町長を配置する考えはないか。また、町長不在時、教育長を事実上の代理者として機能させることは可能か。

答 弁 ○野邑町長

私の町長としての任期も残すところ1年を切った。

今後のことを考えると、副町長となる職員の任期（4年間）の責任を持つことは難しいので、配置は考えていないが、事務等で町民の方々に迷惑をかけるよう努力する。

また、教育長が法の想定している長の権限に属する事務を専決・代決・代行するなどの事務権限を行使することはできないと考える。

東海林繁幸 議員



質問
●ピンネシリ温泉の将来構想について

① 新しい役員体制ができたとのことであるが、何を期待するのか。
② 社長を退任したが、町長としてどう関わっていくのか。
③ 温泉が抱える課題を町としてどう捉えているか。

私が思う課題・懸案は次のとおりである。
・料理人がいない
・職員研修がされていない
・支配人の営業活動不足
・照明器具のLED化
・料金を安く設定した湯治客の誘致と自炊施設の整備

答 弁 ○遠藤まちづくり推進課長

① 取締役を3名から5名に増員し、代表取締役を支える「専務取締役及び常務取締役」を新たに選任し、支配人にも取締役として今まで以上に会社運営に責任を持って携わっていただくこととした。

② 個室にトイレや洗面設備がない点等があり、指摘された課題・懸案については取締役会で検討していく。

答 弁 ○野邑町長

② 町長の意思はまちづくり推進課長を通じて反映するほか、町の重要施設であり、積極的に運営に協力する。課長は取締役として、住民の意向を把握し、町としての意見を述べ、経営改革に臨む。

質問

●有害鳥獣処理施設に関して
① 施設建設費2千360万円は高額過ぎるのではないか。

② 管理運営は適切な委託料を精査し、振興公社に委託すべき。

③ 施設運営、必要備品の購入に当たり、関係者と十分協議する必要があるのではないか。

答 弁 ○中原産業建設課長

① 有害鳥獣の処分施設は、鉄骨造平屋建て165㎡で計画処理頭数500頭に対応する必要最低限の規模、仕様としているが、積雪量が多い当町の場合、割高になる部分がある。

答 弁 ○平中産業建設課参事

② 施設の運営については、当面は町直営を考えている。

施設の運営を行う中で特に問題となると思われる点は、処理個体の回収方法であると考えており、回収と狩猟方法等について、狩猟者と十分に協議しなければならぬ。

また、施設運営後も様々な課題が出てくると思われることから、当面の間は町直営での運営とし、施設の効果的な稼働と効率的な捕獲・回収方法等が確立した段階で委託について検討したい。

③ 今回予算計上している備品は、納期に時間を要すると思われるものを計上した。

また、施設の維持管理に係る経費や人件費等については、捕獲者との回収方法等の協議のなかで調整しなければならぬ内容も多いことから、第3回定例会で予算案を審議していただきたいと考えている。

狩猟者との協議の結果では、さらに必要となる備品も出てくる可能性もあり、必要と判断されるものについては、今後予算化する。

星川 三喜男 議員



質問

●職員採用について

先般、新聞や旬報などで平成27年度の町職員採用で上級職3名の募集があったが、3名の確保は可能なのか。また、初級職採用はないのか伺う。

答 弁 ○和田総務課長

先に採用試験が行われる上級職での二次試験（各町村での面接試験）で優秀な人材を獲得できるように最大限努力し、これが不調の場合、初級職の募集をしたい。

質問

●有害鳥獣処理施設運営と女性ハンター免許取得に助成を

今年度中に建設される用途が立ったことは評価したい。ただ、処理個体の回収、運搬はどのように行うのか。

また、ここ数年、猟銃免許取得に力を入れているが、なかなか取得者もない現状で、今後、助成金を増額して女性ハンターの免許取得を目指すべき

と考えるのがいかがか。

答 弁 ○平中産業建設課参事

処理個体の回収方法については、2tトラックで運搬することを基本に、トラックが侵入できない草地や原野等には4輪バギーとアルミリヤカーを使用し回収するよう計画している。

狩猟免許取得者の支援は、経費の概ね2分の1の助成を行っており、平成24年度から現在までに本制度による取得者は1名である。

今後もし性別にこだわらず、農業・林業関係者のもとより広く本制度の周知を図り、狩猟免許取得者の掘り起こしを進めたい。

質問

●新教育長の教育行政の持論は

前教育長の突然の辞職により教育長に選任されたが、残任期間の今後2年半、新教育長の教育行政に対する持論を伺いたい。

答 弁 ○柴田教育長

3月定例会で教育委員長が述べた教育行政執行方針に沿って、教育行政の継続性・安定性を損なわないよう執行する。

今後、率先して学校現場に足を運び、関係者と多く懇談を持ちながらできる限り教育行政に反映するよう努めたい。また、発生する課題について、放置することなく取り組む所存である。

質問

●中頓別観光開発株式会社の運営について

ピンネシリ温泉事業が赤字経営の中、代表取締役が町長から別の株主に交代したとのことであるが、この会社の持株200株のうち、半分が町の持株である以上、代表取締役を退くのはいかがなものか伺う。

答 弁 ○野邑町長

観光開発株は、昭和63年8月に設立され、平成17年度まで民間の取締役から代表取締役が選任されていた。

その後、代表取締役のなり手がいないということで、私が代表取締役を引き受けてきた。

しかしながら、私が代表取締役を引き受けても、頻繁に会社に出向き経営の身を確かめることができないことから、数年前より退任したいとの意向を取締役会で申し出ており、今回の交代に至ったが、今後も新代表取締役からの相談があれば協力は惜しまないつもりである。

報告事項

※ 町が出資する法人等は、毎年度、経営状況を議会に報告しなければなりません。

報告第3号 有限会社中頓別振興公社の経営状況報告

寿レクリエーション施設、一般廃棄物処理施設、鍾乳洞ふれあい公園、国保病院管理清掃業務等を営む同社全体の平成25年度決算状況は次の通りです。当期純利益が40万円となりました。

● 損益計算結果、貸借対照表

・収益合計	64,081,090円
・費用合計	63,496,084円
・営業利益	585,006円
・当期純利益	406,983円
・資産合計	18,351,661円
・負債合計	3,242,917円
・純資産合計	15,108,744円

※ 町長は、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき行動計画を作成した場合は、速やかに議会に報告するとともに、公表しなければなりません。

報告第4号 新型インフルエンザ等対策行動計画の報告

新型インフルエンザ及びそれと同様の感染力と社会的影響が懸念される感染症の脅威から、町民の生命・健康を保護するため、町内において新型インフルエンザ等患者が発生及び流行した場合に備え、国や北海道と連携のもと、本町の実施すべき事項を明らかにし、今後の対応行動を適切に実施するため定めたものです。

※ 繰越明許費（くりこしめいきよひ）は、予算に計上されているが、年度内に支出が終わらないと見込まれるものについて、予算に定めることにより、翌年度に繰り越して支出することができるものです。

報告第1号 平成25年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告

平成25年度から26年度に次の事業予算が繰り越されました。

(単位：千円)

事業名	繰越金額
小頓別地区テレビ無線共聴施設整備事業	28,035
合計	28,035

※ 町が出資する法人等は、毎年度、経営状況を議会に報告しなければなりません。

報告第2号 中頓別観光開発株式会社の経営状況報告

ピンネシリ温泉の平成25年度決算は、前年度に比べ入館者で420人減少、宿泊者で19人増加。当期純損失が200万円となりました。

● 損益計算結果、貸借対照表

・収益合計	33,395,919円
・費用合計	35,171,979円
・営業損失	1,776,060円
・当期純損失	2,000,475円
・資産合計	8,920,695円
・負債合計	5,216,080円
・純資産合計	3,704,615円

● 利用状況

・宿泊者数	2,414人 (前年度 2,395人)
・入館者数	10,382人 (前年度10,802人)
・会食利用件数	40件 (前年度57件)、利用人数794人 (前年度1,076人)

第3回臨時会結果(5月23日)
柴田弘氏の教育委員会任命に同意

4月30日に辞任した米屋彰一教育委員の後任教育委員として、柴田弘氏の任命に全会一致で同意しました。このほか、2件の承認議案が提案され、いずれも原案のとおり承認されました。

教育委員会委員の任命同意
教育委員 柴田 弘氏

任期(前任者の残任期間)
平成26年5月23日

承認第1号 税条例の一部改正(3月31日 専決処分)
地方税法の一部を改正する法律の施行に伴う、法人住民税制、軽自動車税の税率の改正等と固定資産税の軽減措置の創設です。

承認第2号 国民健康保険条例の一部改正(3月31日 専決処分)
地方税法の一部を改正する法律の施行に伴う、軽減措置に係る所得の範囲の改正です。

第4回臨時会結果(7月9日)
代蔵恵三氏の監査委員選任に同意

6月30日に辞任した三浦義一代表監査委員の後任監査委員として、代蔵恵三氏の選任に全会一致で同意しました。

監査委員の選任同意
監査委員 代蔵 恵三氏

任期(4年)
平成26年7月9日
平成30年7月8日

議員だより

～私の思い～

このコーナーは、それぞれの議員が町づくりや議会活動などについて思いを綴るものです。

『子供の安全を願って』

先日、2005年12月1日に発生した幼児殺人事件の犯人が検挙されました。

幼い命を奪った憎き犯人の逮捕に携わった関係者の努力に敬意を表し、亡くなられた幼児のご冥福をお祈りいたします。

この年の秋口から続けて3件の幼児殺人事件が発生し、本州の市とは言え、ことごとく郊外の田舎道が現場となりました。そのような事件とは無関係と思っていた中頓別町でしたが、身近に感じた山間の出来事を憂い、自然発生的に発足したのが「こども安全パトロール隊」です。18名のおじいさん、おばあさん達でした。今年で9年目に入り、毎日、小学校の下校時に約1時間、不審者などの監視活動をしています。

現在は小頓別地区2名を含めて11名で活動していますが、これまでに3名の方が亡くなり、4名の方が足・腰を痛めてリタイヤしています。3班編成で3日に1度のパトロールで、私にとっては健康維持のためにも欠くことができない活動になりました。

あと2～3名増えると充実した活動ができるのですが、今、隊員不足が悩みです。

こどもの安全のため、町の防犯のため、あなたの健康のため「こども安全パトロール隊」に入っただけませんか。

お気軽に声をかけてください。お願いします。

こんな活動も町づくりの一役と思えるのですが・・・

(綴人：東海林繁幸)

議決された条例・補正予算

○議案第39号 過疎地域自立促進市町村計画の変更
新規に実施する施設整備事業について、過疎対策事業債を充当するための計画変更です。

○議案第40号 一般会計補正予算

歳入歳出に8千102万円を追加。総額は28億2千622万円に。

歳出の主なものは、総務費で、地域づくり活動支援補助金55万円を計上。民生費で、デイサービスセンター及び在宅介護支援センター建設事業繰上償還補助金1千833万円を計上。

農林水産業費で、新規就農者経営自立安定補助金1千200万円、弥生地区基盤整備促進工事450万円、有害鳥獣処理施設建設工事2千360万円、

備品購入費1千156万円を計上。

商工費で、プレミアム型商品券発行事業補助金327万円を計上。

消防費で、吏員待機宿舍屋根修繕工事185万円を含む204万円を、南宗谷消防組合負担金として計上。

○議案第41号 国民健康保険事業特別会計補正予算

歳入歳出に99万円を追加。総額は2億8千817万円に。

歳出では、コクホ・ライン調交システム導入委託料99万円を計上。

○議案第42号 国民健康保険病院事業会計補正予算

収益的収支の収入及び支出にそれぞれ133万円を追加。総額は5億2千296万円に。

歳出では、看護師長紹介業務委託料133万円を計上。

○発議第3号 特定秘密の保護に関する法律の廃止を求める意見書

国民の知る権利を侵害する特定秘密保護法の廃止を求めるものです。

○発議第4号 規制改革会議意見書の取扱いに関する意見書

規制改革会議意見書を反映させる「農林水産業・地域の活力創造プラン」の改定にあたっては、真に農業者の所得向上・地域生活インフラの維持向上・国民に対する食糧供給の安定確保・農地の適正利用に資する観点から取扱うことを求めるものです。

○請願第2号 規制改革会議意見書の取扱いに関する請願

発議第4号で議決された意見書と同一趣旨であるため議決不要とし、採択されたものとみなされました。

いきいきふるさと

常任委員会

議案第40号一般会計補正予算は、議員全員で構成するいきいきふるさと常任委員会(星川三喜男委員長)に審査を付託しました。

審査の結果、次の意見を付して全会一致で原案可決し、議会に報告しました。

【審査意見】

1 有害鳥獣処理施設の運営について、直営ではなく、第3セクター設立の趣旨を踏まえ、委託方式での運営を求める。

2 プレミアム型商品券について、購買力が増加する年末までの利用期間の拡大と事業終了後の事業評価の提出を求める。

議会の動き

4月

- 20日 中頓別町故郷会（東京都）
- 22日 寿大学入学式
- 25日 中頓別町観光協会総会
- 26日 中頓別町自衛隊協力会通常総会

5月

- 1日 鍾乳洞安全祈願祭
- 9日 中頓別町農業協同組合通常総会
- 11日 中頓別町クリーン作戦
- 12日 宗谷町村議会議長会定期総会（稚内市）
- 15日 中頓別町育英会総会
- 16日 中頓別町商工会通常総会
- 18日 中頓別消防団春季消防演習
- 23日 第3回臨時会
- 24日 道州制問題を考える緊急集会（札幌市）
- 29日 宗谷管内町村議会議員研修会（猿払村）

6月

- 1日 鍾乳洞祭り
名寄駐屯地創立61周年記念行事
（名寄市）
- 2日 中頓別町戦没者慰霊祭
議会運営委員会
- 3日 天北線代替輸送連絡調整協議会総会及
び稚内音威子府間「命をつなぐ街道」
整備促進期成会総会（浜頓別町）
- 5日 北海道町村議会議長会定期総会
（札幌市）
- 8日 中頓別小学校運動会
- 9日 議会運営委員会
- 18日～19日
第2回定例会
- 28日 こども館運動会
旭台夏祭り

7月

- 4日 北海道町村議会議員研修会（札幌市）
- 8日 道北議員研修会（稚内市）
- 9日 第4回臨時会
いきいきふるさと常任委員会（所管事
務調査）
- 10日 議会広報編集特別委員会
- 15日 議会広報編集特別委員会

《宗谷管内町村議会議員研修会報告》

5月29日、宗谷管内町村議会議員研修会が猿払村交流センターで開かれ、本町からも全議員が出席し、北海道新聞本社編集局生活部長の伊藤一哉氏が「日ロ交渉の行方 北方領土を中心として」と題した講演を聴講しました。

冷戦期は、日本人は北方四島との間を行き来できず、赤鬼のように顔の赤いソ連兵の凶をあしらった「北方領土を返せ！」の看板を掲げるなど、「ソ連」と「ソ連人」に対する強い恐怖心を抱いていたことが分かります。それが新生ロシア期を迎えると、1992年にビザなし交流が始まり、1998年からは北方四島周辺での「安全操業」が可能となりました。

しかしながら、今年の3月18日にウクライナからの独立を宣言した、いわゆるクリミア問題に欧米が強く反発。日本も初の対ロ制裁を発動し、査証（ビザ）緩和に関する協議を停止。新投資協定や危険な軍事活動の防止に関する協定など3件の協定の交渉開始を凍結しました。

今後もし北方領土が返還された場合、そこに住むロシア人はどうなるのか。返還されてもその場所に残ることは自由だが、医師や弁護士など、自国で得た国家資格等は活かされるのか。この点については南方で適用された見なし制度が活用されるのではないか。土地の権利問題等の解決策はあるのか。ビザなし交流は継続されるのか。

日ロ関係の歴史と、貿易、領土返還、2国間交流の今後など、宗谷管内の議員にとって他の地域以上に、より身近なテーマについて改めて考えさせられました。

講演後の村内視察では、農業法人「北の大地」に設置されたバイオガスプラントを見学させていただきました。乳牛の糞尿を原料とするバイオガスプラント建設は、村のバイオマスタウン構想に沿った事業の第一歩であり、村内の臭気対策として、宗谷管内で初めて設置された施設です。酪農を産業に持つ自治体の先進的な事例にも触れることができた大変有意義な研修会となりました。

（報告者：宮崎泰宗）

編集後記

ベストセラーである『里山資本主義』という本を読みました。田舎には、現代マネー（貨幣）の尺度では計れないものが沢山眠っていると本書は語りかけてきます。

「逆転の発想で捉えれば、役に立たないと思っていたものも宝物となり、何もないと思っていた地域は、宝物があふれる場所となる」との一節に感銘。「無価値」を「価値」に変えようと、価値基準を設定しなおすのが「里山資本主義」の本質。世界を覆う単一の資本主義ではなく、地域ごとに価値観の異なった経済がある。そう考えると中頓別を見る目は随分変わってきます。

今回の補正予算には、藤井地区での炭窯整備事業に対する補助金も含まれています。これまでほとんど顧みられなかった雑木も立派な炭に姿を変えれば宝物。

炭焼きは、わが町ならではの資源を使い、ささやかながら地域内で利潤を生み出す可能性を秘めています。「無価値」を放置せず、価値あるものに変えようとする藤井地区の皆さんに学びたいものです。

議会広報編集特別委員会(宮)